



教育の眼

教育長 津野庄一郎

「令和 7 年度 新潟県市町村教育委員会連合会定期総会・研修会」が阿賀野市ふれあい会館で、7 月 18 日午後、全県の教育長・教育委員等を集めて開催されました。総会に続き、行政説明として文部科学省初等中等教育局の加賀俊策課長補佐から「地方教育行政の充実に向けて」と題して講話をいただき、その後、グループで「教育委員として教育現場に貢献できること」をテーマに、活発に情報交換を行いました。

妙高市の教育委員は、学習ボランティアのコーディネーターの経験から、教師や子どもとつながる喜びと共に、情報発信の重要性を指摘しました。また、田上町の教育委員は、最近の中学生は失敗を怖がる傾向がある。常に大人から結果を求められているからではないかといった声も聞かれました。他市町村教育委員との情報交換は、視野を広げる意味で貴重な機会です。

この日午前、「第 3 回 関川村教育委員会」が役場会議室で開かれ、教育長報告に次いで、令和 8 年度使用教科用図書（一般図書：特別な支援を要する児童生徒使用）の採択が行われました。また、会の中で、委員から関川小学校プールの防犯についての質問があり、プール監視のボランティアをしている委員からは、不審者に対して十分気をつけているとの話がありました。その時、子どもの安心安全を守るため、秋季学校訪問の折りに、校舎内の死角になりやすい場所等を確認することといたしました。

4 名の教育委員の皆さんからは、ご自身のキャリアを踏まえ、様々な角度から建設的な意見や質問をいただき、感謝しているところです。今後も村の教育にかかわる諸課題に対する意見交換や学習会を通じ、解決の方途を探るとともに、村内 54 集落の子どもに関する情報収集等を推進してまいりますので、村民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。